

注意事項

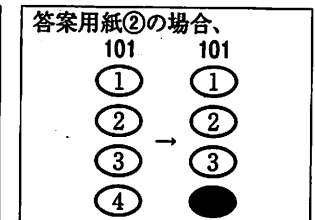
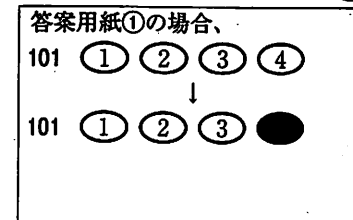
1. 試験問題の数は55問で解答時間は正味1時間20分である。
2. 解答方法は次のとおりである。
 - (1) (例1)、(例2)及び(例3)の問題では1から4までの4つの選択肢、もしくは1から5までの5つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を(例1)、(例2)では1つ、(例3)では2つ選び答案用紙に記入すること。
 なお、(例1)、(例2)の質問には2つ以上解答した場合は誤りとする。(例3)の質問には、1つ又は3つ以上解答した場合は誤りとする。

(例1)

101 助産業務を行うことが可能となるのはどれか。

1. 国家試験受験日以降
2. 合格発表日以降
3. 合格証書受領日以降
4. 助産師籍登録日以降

正解は「4」であるから答案用紙の④をマークすればよい。



(例2)

102 保健師助産師看護師法が制定された年はどれか。

1. 明治 32 年(1899 年)
2. 大正 4 年(1915 年)
3. 昭和 23 年(1948 年)
4. 昭和 43 年(1968 年)
5. 平成 13 年(2001 年)

正解は「3」であるから答案用紙の③をマークすればよい。

<p>答案用紙①の場合、</p> <p>102 (1) (2) (3) (4) (5)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>102 (1) (2) (●) (4) (5)</p>	<p>答案用紙②の場合、</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">102</td> <td style="width: 50%;">102</td> </tr> <tr> <td>(1)</td> <td>(1)</td> </tr> <tr> <td>(2)</td> <td>(2)</td> </tr> <tr> <td>(3) →</td> <td>(●)</td> </tr> <tr> <td>(4)</td> <td>(4)</td> </tr> <tr> <td>(5)</td> <td>(5)</td> </tr> </table>	102	102	(1)	(1)	(2)	(2)	(3) →	(●)	(4)	(4)	(5)	(5)
102	102												
(1)	(1)												
(2)	(2)												
(3) →	(●)												
(4)	(4)												
(5)	(5)												

(例3)

103 助産師籍に登録されるのはどれか。2つ選べ。

1. 生年月日
2. 受験年月日
3. 卒業年月日
4. 就業年月日
5. 登録年月日

正解は「1」と「5」であるから答案用紙の①と⑤をマークすればよい。

<p>答案用紙①の場合、</p> <p>103 (1) (2) (3) (4) (5)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>103 (●) (2) (3) (4) (●)</p>	<p>答案用紙②の場合、</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">103</td> <td style="width: 50%;">103</td> </tr> <tr> <td>(1)</td> <td>(●)</td> </tr> <tr> <td>(2)</td> <td>(2)</td> </tr> <tr> <td>(3) →</td> <td>(3)</td> </tr> <tr> <td>(4)</td> <td>(4)</td> </tr> <tr> <td>(5)</td> <td>(●)</td> </tr> </table>	103	103	(1)	(●)	(2)	(2)	(3) →	(3)	(4)	(4)	(5)	(●)
103	103												
(1)	(●)												
(2)	(2)												
(3) →	(3)												
(4)	(4)												
(5)	(●)												

(2) 計算問題については、□に囲まれた丸数字に入る適切な数値をそれぞれ1つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例4)の質問には丸数字1つにつき2つ以上解答した場合は誤りとする。

(例4)

104 50床の病棟で入院患者は45人である。

この病棟の病床利用率を求めよ。

ただし、小数点以下の数値が得られた場合には、小数点以下第1位を四捨五入すること。

解答：①②%

- | | |
|---|---|
| ① | ② |
| 0 | 0 |
| 1 | 1 |
| 2 | 2 |
| 3 | 3 |
| 4 | 4 |
| 5 | 5 |
| 6 | 6 |
| 7 | 7 |
| 8 | 8 |
| 9 | 9 |

正解は「90」であるから①は答案用紙の⑨を②は①をマークすればよい。

<p>答案用紙①の場合、</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">104</td> <td style="width: 50%;">104</td> </tr> <tr> <td>① (0) (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (●)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>② (●) (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9)</td> <td></td> </tr> </table>	104	104	① (0) (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (●)		② (●) (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9)		<p>答案用紙②の場合、</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">104</td> <td style="width: 50%;">104</td> </tr> <tr> <td>① (0) (●)</td> <td>②</td> </tr> <tr> <td>(1)</td> <td>(1)</td> </tr> <tr> <td>(2)</td> <td>(2)</td> </tr> <tr> <td>(3)</td> <td>(3)</td> </tr> <tr> <td>(4)</td> <td>(4)</td> </tr> <tr> <td>(5)</td> <td>(5)</td> </tr> <tr> <td>(6)</td> <td>(6)</td> </tr> <tr> <td>(7)</td> <td>(7)</td> </tr> <tr> <td>(8)</td> <td>(8)</td> </tr> <tr> <td>(●)</td> <td>(9)</td> </tr> </table>	104	104	① (0) (●)	②	(1)	(1)	(2)	(2)	(3)	(3)	(4)	(4)	(5)	(5)	(6)	(6)	(7)	(7)	(8)	(8)	(●)	(9)
104	104																												
① (0) (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (●)																													
② (●) (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9)																													
104	104																												
① (0) (●)	②																												
(1)	(1)																												
(2)	(2)																												
(3)	(3)																												
(4)	(4)																												
(5)	(5)																												
(6)	(6)																												
(7)	(7)																												
(8)	(8)																												
(●)	(9)																												

1 明治 32 年(1899 年)に制定された産婆規則で規定されたのはどれか。

1. 産婆組合の設置
2. 6 か月以上の産婆の学術修業
3. 満 40 歳以上の女子の資格要件
4. 母子の異常を認めたとときの医師への診療要請

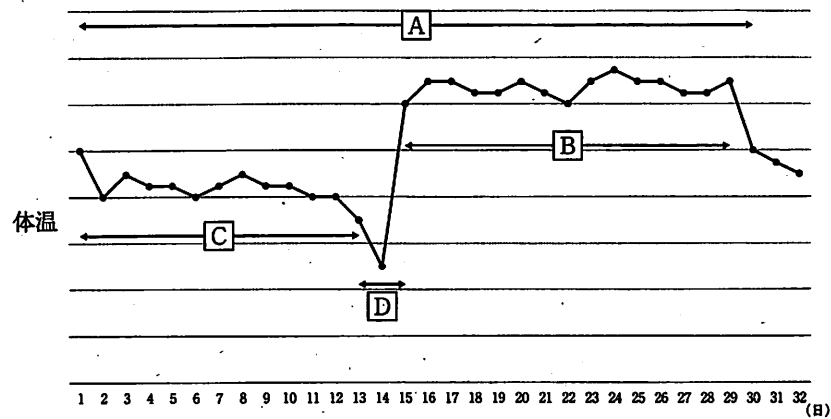
2 正常な卵巣機能をもつのはどれか。

1. アンドロゲン不応症
2. Turner(ターナー)症候群
3. Rokitansky(ロキタンスキー)症候群
4. Klinefelter(クラインフェルター)症候群

3 低用量経口避妊薬について正しいのはどれか。

1. 大腸癌のリスクを増加させる。
2. 休薬期間を除いて 1 日 1 回毎日内服する。
3. コンドームによる避妊法に比べ避妊効果が低い。
4. 静脈血栓塞栓症の発生頻度は、妊娠期より低用量経口避妊薬の内服中の方が高い。

4 基礎体温表を以下に示す。



黄体機能を推定できるのはどれか。

1. A
2. B
3. C
4. D

5 妊娠初期にhCG(ヒト絨毛性ゴナドトロピン)が産生を維持するホルモンはどれか。

1. hPL(ヒト胎盤性ラクタゲン)
2. コルチゾール
3. プロラクチン
4. プロゲステロン

6 新生児の呼吸障害の症状とその原因の組合せで正しいのはどれか。

1. 呻 吟 ———— 呼吸中枢の未熟性
2. 多呼吸 ———— 高い気道抵抗
3. 陥没呼吸 ———— 胸郭の脆弱性
4. 無呼吸発作 ———— 小さなガス交換面積

7 乳児期の泌尿器系の発達で正しいのはどれか。

1. 排尿は反射的に行われる。
2. 新生児の尿濃縮力は成人と同程度である。
3. 乳児期前半での尿回数は1日5回程度である。
4. 体表面積当たりの腎血流量は生後3か月で成人レベルに達する。

8 Aさん(78歳、女性)は骨盤臓器脱と診断され、ペッサリーの挿入によって症状が改善していた。最近、赤色帯下が下着に付着するため婦人科を受診した。ペッサリーと接する腔壁に浅いびらんがあり、少量の出血を認める。超音波検査では子宮、付属器は正常で、子宮頸部の細胞診では異常はない。

出血の改善に有効な腔錠の成分はどれか。

1. イソコナゾール硝酸塩
2. クロラムフェニコール
3. エストリオール
4. プロゲステロン

9 Aさん(26歳、1回経産婦)は、妊娠38週5日に陣痛発来で入院した。身長152cm。推定胎児体重は3,550g。Leopold(レオポルド)触診法に続き、Seitz(ザイツ)法を用いて診察を行った。児頭と恥骨が同じ高さに触れた。

このときの助産診断で適切なのはどれか。

1. 児頭の最大通過面は骨盤入口部を超えている。
2. 児頭骨盤不均衡(CPD)である。
3. Seitz(ザイツ)法(土)である。
4. 児頭の回旋は正常である。

10 前置胎盤について正しいのはどれか。

1. 経腔超音波検査で診断を行う。
2. 約半数は癒着胎盤を合併する。
3. 妊娠後期にスクリーニング検査を行う。
4. 診断後は子宮収縮の有無に関わらず子宮収縮抑制薬を投与する。

11 正常経過である妊婦のリスクとその影響の組合せで正しいのはどれか。

1. 歯周病 ————— 低出生体重児
2. 30分の水泳 ————— 切迫早産
3. 過度の日焼け ————— 児のビタミンD欠乏症
4. カフェインの摂取 ————— 巨大児

12 Aさん(43歳、初産婦、未婚)は産科外来を初めて受診し、妊娠16週0日と診断された。妊婦健康診査の結果に異常はない。「会社を経営していて忙しいです。自宅では75歳の母親の介護もしています。これからどうしたらよいのでしょうか」と話している。

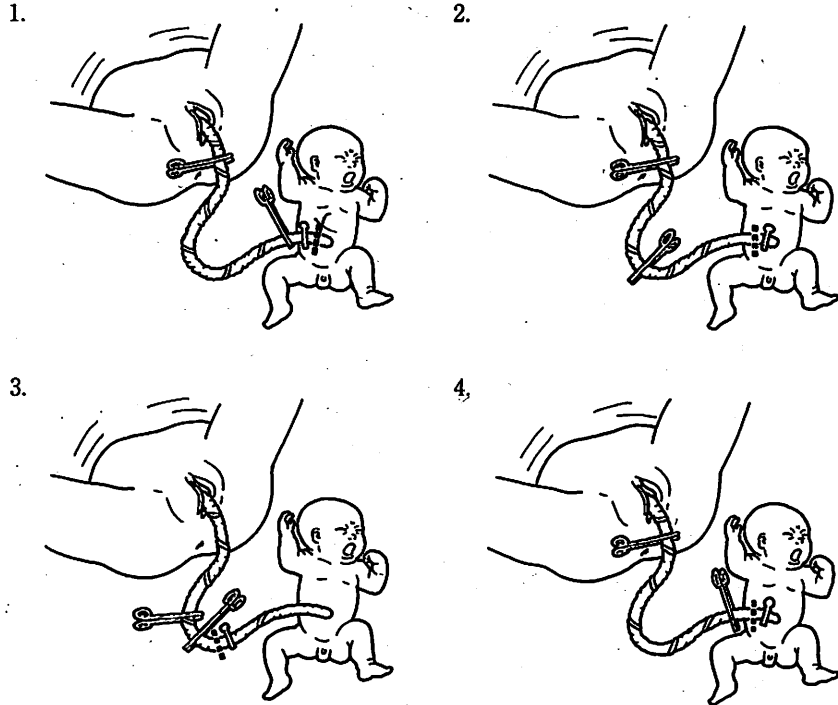
このときの助産師の対応で優先度が高いのはどれか。

1. 受診が遅れた理由を確認する。
2. 妊婦健康診査の頻度を説明する。
3. 在胎16週の胎児の発育を説明する。
4. 妊娠をどのように受け止めているか確認する。

13 分娩介助における臍帯の処置を図に示す。

順調な分娩経過で出生し、速やかに第一啼泣を開始した正期産児の臍帯の切断で適切なものはどれか。

ただし、切断箇所を点線で示す。



14 Aさん(28歳、初産婦)は、Bちゃん(生後4か月、女児)と一緒に子育て世代包括支援センターの助産師に相談に来た。Aさんは「まだBの歯磨きはしていません。赤ちゃんの歯とケアについて知りたいです」と話した。

このときの助産師の説明で適切なものはどれか。

1. 「生後6か月で乳歯は生えそろいます」
2. 「乳歯は虫歯になることはありません」
3. 「今日から歯ブラシを使って歯磨きを始めましょう」
4. 「生え始めはガーゼで拭き取ることから始めましょう」

15 Aさん(38歳、初産婦)は40週0日、3,000gの児を正常分娩で出産した。母乳育児を希望しており、母乳栄養のみで退院した。産褥14日、母乳外来を訪れ「おっぱいが足りていない気がして、ミルクを足した方がいいのか迷っています」と心配そうに話す。本日の児の体重は3,100g、直近24時間の授乳回数は10回で、排便は6、7回ある。

助産師の対応で適切なものはどれか。

1. 「ミルクを足しましょう」
2. 「小児科を受診しましょう」
3. 「どうして母乳が足りていないと感じるか教えてください」
4. 「毎回授乳の前後に赤ちゃんの体重を測って母乳量を計算しましょう」

16 Aさん(32歳、2回経産婦)は妊娠30週0日。妊婦健康診査を受診したところ、胎児心拍が確認できず、子宮内胎児死亡と診断された。Aさんは突然のことで驚き、戸惑っており、落ち着かない様子であった。

助産師の対応で優先度が高いのはどれか。

1. 分娩の方法について説明する。
2. セルフヘルプグループを紹介する。
3. 亡くなった子に何をしたいか尋ねる。
4. プライバシーが保てる個室へ案内する。

17 日齢2の正期産児。

医師に報告すべき症状はどれか。

1. 周期性呼吸を認める。
2. 心雑音が聴取される。
3. 新生児中毒性紅斑が出現する。
4. 排気とともに哺乳したものを嘔吐する。

18 乳幼児の事故で正しいのはどれか。

1. 乳児の溺水事故が多いのは近隣水域である。
2. 頭部外傷では陥没骨折が起りやすい。
3. 四肢の骨折は遠位端で起りやすい。
4. 熱中症の発生場所は自宅内が多い。

19 令和3年(2021年)に施行された母子保健法の改正内容はどれか。

1. 妊娠、出産、育児に関する保健指導の対象者に妊産婦の配偶者を加えた。
2. 母子健康包括支援センターの設置が市町村の努力義務になった。
3. 産後ケア事業の実施が市町村の努力義務になった。
4. 妊産婦訪問指導の実施主体が市町村に委譲された。

20 Aさん(初産婦、未婚)は、1人暮らしをしている。出産後3か月は実家に滞在する予定である。

出生の届出書の提出で正しいのはどれか。

1. 提出は出生後21日以内と規定されている。
2. 届出者はAさんでなければならない。
3. 居住地区の保健所に提出する。
4. 嫡出子の有無を記入する。

21 母体保護法に基づく不妊手術で正しいのはどれか。

1. 卵管結紮術が含まれる。
2. 男性の手術は対象外である。
3. 子どもがいない場合は適用の対象外である。
4. 保健所長に実施報告をしなければならない。

22 助産所が、助産業務ガイドライン2019に基づき、連携する産婦人科医師と相談して協働管理すべき条件で正しいのはどれか。

1. 妊娠高血圧症候群の既往があるが今回の発症はない者
2. 前回は妊娠32週の早産だったが今回の妊娠経過は順調な者
3. 糖尿病を合併しているが胎児の推定体重は正常範囲である者
4. 助産所で第1子を出産した後に子宮頸部円錐切除術を受けた者

23 妊娠に伴う肺の機能的残気量を低下させる要因はどれか。

1. 横隔膜の挙上
2. 呼吸数の増加
3. 肺活量の低下
4. 心臓の上方転位
5. 動脈血二酸化炭素分圧 (PaCO₂) の上昇

24 胎児型ヘモグロビン (HbF) の特徴で正しいのはどれか。

1. 出生後に組織への酸素供給量が増加する。
2. 低体温では酸素との結合能力が低くなる。
3. 早産児の臍帯血中ヘモグロビンの約 30% を占める。
4. 成人型ヘモグロビン (HbA) より酸素との結合能力が高い。
5. 胎児型ヘモグロビン (HbF) を有する赤血球の寿命は約 60 日である。

25 日齢 2 の新生児。1 時間前に母乳を飲んだ。閉眼しており眼球運動が観察できない。

このときの児の意識レベルは Brazelton (ブラゼルトン) の新生児行動分類のどれか。

1. state 1
2. state 2
3. state 3
4. state 4
5. state 5

26 妊娠初期の使用で催奇形性が明らかである薬剤はどれか。

1. インドメタシン
2. 低用量経口避妊薬
3. ヒドララジン塩酸塩
4. メトホルミン塩酸塩
5. ワルファリンカリウム

27 日齢 27 の新生児。1 か月児健康診査受診時、母親から児の右眼に眼脂がみられるという訴えがあった。医師は先天性鼻涙管閉塞症と診断し、点眼薬を処方して 1 週後の再診を指示して健康診査は終了した。帰り際、母親から健康診査に立ち会った助産師に児の予後に関する不安の訴えがあった。

母親への説明で適切なのはどれか。

1. 「治療しないと失明する危険があります」
2. 「症状が続けば眼科受診が必要になります」
3. 「ほとんどの新生児に認められる症状です」
4. 「点眼で症状改善後は再発の心配はありません」
5. 「いずれ手術が必要になる可能性が高い疾患です」

28 在胎 28 週 0 日、体重 1,200 g で緊急帝王切開で出生した男児。Apgar〈アプガー〉スコアは 1 分後 3 点で、気管挿管後に NICU に入院し、呼吸窮迫症候群〈RDS〉と診断された。肺サーファクタント補充療法後、人工呼吸管理を開始し、いったん呼吸状態は安定した。児は 2 時間後に突然徐脈になり、皮膚色が蒼白になった。

急変の原因で最も考えられるのはどれか。

1. 無気肺
2. 緊張性気胸
3. 慢性肺疾患
4. 未熟児貧血
5. 脳室周囲白質軟化症

29 就労している妊婦が「産前休業を申請した後、上司から「こんな忙しいときに産前休業を取るなんて、周りとはとても迷惑する」と何度も言われています。これはハラスメントではないでしょうか」と相談した。

このような上司からの言動の防止措置を定めた法律はどれか。

1. 地域保健法
2. 母子保健法
3. 労働基準法
4. 雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律〈男女雇用機会均等法〉
5. 育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律〈育児・介護休業法〉

30 診療報酬の乳腺炎重症化予防ケア・指導料で正しいのはどれか。

1. 入院している褥婦も算定できる。
2. 医師が必要と認めた場合に算定できる。
3. 看護師がケアを実施した場合も算定できる。
4. 母乳育児を行っていない褥婦も算定できる。
5. 算定対象となる褥婦であれば何回でも算定できる。

31 家族を中心としたケア〈Family-Centered Care : FCC〉の基本概念はどれか。

2つ選べ。

1. 安心
2. 教育
3. 協働
4. 参加
5. ホリスティック

32 骨盤内感染症のリスク因子となるのはどれか。2つ選べ。

1. 分娩
2. 膀胱炎
3. 経膈超音波検査
4. 子宮膈部細胞診
5. 子宮内避妊具〈IUD〉

33 妊娠による母体の生理的変化で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 腹式呼吸になる。
2. 腎血流量が減少する。
3. 心拍出量が増加する。
4. 消化管運動が亢進する。
5. インスリン分泌が亢進する。

34 更年期障害に対するホルモン補充療法を行う際に、慎重投与ないしは条件付きでの投与が可能なのはどれか。2つ選べ。

1. 原因不明の不正性器出血のある者
2. 子宮内膜症の既往のある者
3. 心筋梗塞の既往のある者
4. 脳卒中の既往のある者
5. 片頭痛のある者

35 胎児発育不全(FGR)の母体側のリスク因子はどれか。2つ選べ。

1. 性器クラミジア感染症
2. 甲状腺機能亢進症
3. 帝王切開の既往
4. 妊娠前のやせ
5. 経産婦

36 産科危機的出血への対応指針に示されている産科危機的出血の定義に当てはまるのはどれか。2つ選べ。

1. 出血の持続
2. Hb値6.8g/dL
3. 産科DICスコア7点
4. ショックインデックス1.5
5. 経膈分娩後24時間以内の出血量500mL

37 乳幼児のRSウイルス感染症で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 感染した場合には抗ウイルス薬を内服する。
2. 鼻汁や咳などの呼吸器症状がみられる。
3. 生の魚介類を食べることで感染する。
4. ほとんどの乳幼児が感染する。
5. 定期予防接種がある。

38 出生後24時間以内の早産児に出現しやすい生理学的特徴はどれか。2つ選べ。

1. 貧血
2. 高血圧
3. 低血糖
4. 高カルシウム血症
5. 中枢性の無呼吸発作

39 Aちゃん(女兒)は在胎32週0日に経膣分娩で出生した。弱々しく泣き、筋緊張は低下していた。出生後1分の心拍数120/分。マスクバック換気を経て有効な換気ができ、NICUに入院した。生後4時間、助産師はNICUに初めて面会に来た母親に対応した。

ディベロップメンタルケアの視点からの説明で適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 「オムツ交換は看護師が行います」
2. 「タオルを用いてAちゃんの周囲を囲い込みます」
3. 「Aちゃんに触れる際は医療用手袋を装着してください」
4. 「面会時はAちゃんがよく見えるように照明を明るくします」
5. 「Aちゃんが目を開けているときはやさしく語りかけてあげましょう」

40 平日の午後2時、震度6強の地震があった。

地域周産期母子医療センターの産科病棟は建屋が免震構造であったため、内部の被害はほぼなかったがエレベーターが緊急停止した。ニュースでは公共交通機関が運転を中止し、道路の渋滞が起き始めたと報道している。

看護管理者の初期対応はどれか。2つ選べ。

1. 災害時小児周産期リエゾンを任命する。
2. 出勤できない夜勤スタッフの勤務調整を行う。
3. 母親と同室している新生児をスタッフステーションに集める。
4. 非常用電源での分娩監視装置の動作確認をスタッフへ指示する。
5. 被災した地域の連携病院で分娩予定だった産婦の受け入れを決定する。

次の文を読み 41～43 の問いに答えよ。

A さん(48 歳、未産婦)は身長 160 cm、体重 45 kg、BMI 17.6。初経 12 歳。元来、月経周期は 45～60 日で不規則である。35 歳のときに婦人科医院を受診し多嚢胞性卵巣症候群、子宮筋腫と診断されたが、その後は自己判断で通院していない。2 年前に甲状腺機能亢進症と診断され、内科医院に通院し内服治療中である。半年前から不正性器出血があり、かかりつけの内科医に相談したところ、子宮体癌の疑いがあると言われた。

41 A さんの子宮体癌のリスク因子はどれか。2 つ選べ。

1. 未産婦
2. 子宮筋腫
3. BMI 17.6
4. 甲状腺機能亢進症
5. 多嚢胞性卵巣症候群

42 A さんは子宮体癌の精密検査のために、婦人科医院で経膈超音波断層法と子宮内膜細胞診を受けることになった。

A さんへの検査の説明で正しいのはどれか。

1. 「検査前は排尿を控えましょう」
2. 「子宮の中に内視鏡を入れる検査です」
3. 「検査を受けた日はシャワー浴にしましょう」[※]
4. 「膈分泌物を採取して顕微鏡で観察する検査です」

43 A さんは子宮体癌と診断され、子宮全摘術と両側付属器切除術を受けた。定期的な経過観察のみで、術後 3 か月が経過している。

現時点で A さんに認められる症状で最も考えられるのはどれか。

1. 尿失禁
2. ほてり
3. 膈の搔痒感
4. 記憶力の低下

次の文を読み 44～46 の問いに答えよ。

A さん(39 歳、1 回経産婦)、妊娠経過は順調で無痛分娩をする予定だった。妊娠 37 週 1 日、3 時間前から続く腹痛と性器出血を主訴に、午前 9 時に産婦人科を受診した。意識は清明だが、痛みのため苦悶様の表情で、子宮は硬い。バイタルサインは、体温 37.3℃、脈拍 69/分、整、血圧 114/72 mmHg、経皮的動脈血酸素飽和度 (SpO₂)97%(room air)。内診所見は、未破水、子宮口 3cm 開大、展退度 50%、Station -1、児頭が触れた。胎児心拍が消失しており胎児死亡と診断された。

このときの腹部超音波断層法写真(別冊No. 1)を別に示す。

44 このときの対応で正しいのはどれか。

1. 飲水を促す。
2. 抗菌薬の準備をする。
3. 分娩誘発の準備をする。
4. 硬膜外麻酔の準備をする。

別冊
No. 1

45 A さんの分娩は進行し、午後 1 時に子宮口が全開大した。来院後から 500 mL の性器出血を認めている。意識は清明で、バイタルサインは、体温 37.4℃、脈拍 88/分、整、血圧 103/74 mmHg。血液検査所見は、赤血球 324 万/ μ L、Hb 8.6 g/dL、白血球 9,700/ μ L、血小板 6.0 万/ μ L、フィブリノゲン 92 mg/dL、クレアチニン 0.7 mg/dL、AST 18 IU/L(U/L)、ALT 16 IU/L(U/L)。

このときのアセスメントで正しいのはどれか。

1. HELLP 症候群である。
2. 出血性ショックである。
3. 弛緩出血を起こしている。
4. 凝固能が低下した状態である。

46 A さんは午後 2 時に死児を出産した。胎盤が娩出された直後から、子宮から多量の出血を認め、直ちに医師によって子宮双手圧迫が行われた。

止血の目的で、次に行う処置はどれか。

1. 子宮摘出
2. 子宮の冷罨法
3. 子宮動脈塞栓術
4. 子宮腔内バルーンタンポナーデ

次の文を読み 47～49 の問いに答えよ。

A さん(32 歳、初産婦)は、妊娠 39 週 0 日。2 時に破水感があり、3 時にパートナーとともに来院し、入院した。入院時の検査で BTB 試験紙は青色を示した。8 時、陣痛間欠 8 分、陣痛発作 20 秒で陣痛が開始した。11 時、陣痛間欠 8～9 分、陣痛発作 20 秒、羊水の流出はない。四肢末梢の冷感がある。「お腹の痛みは少しで、腰の方が痛みますが、我慢できます。少し胃のむかつきがあり、朝食は果物だけ食べました」と話す。

47 このときの助産師の A さんへの対応で適切なのはどれか。

1. 「深呼吸をしましょう」
2. 「足浴をしてみましょう」
3. 「入浴をしてみましょう」
4. 「昼食は残さず食べましょう」
5. 「パートナーに肛門を圧迫してもらいましょう」

48 A さんは、23 時に子宮口が全開大し、翌日の 0 時 30 分に 3,800 g の男児を出産した。Apgar(アプガー)スコアは 1 分後 9 点。0 時 33 分、恥骨結合上の腹壁を圧すると臍帯が膈内に引き込まれ、臍帯を把持して子宮底を軽く叩くと振動が臍帯に伝わる。子宮収縮良好であり、会陰裂傷は I 度で産道損傷はない。

助産師の対応で適切なのはどれか。

1. 子宮底をマッサージしながら臍帯を強く引っ張る。
2. 子宮収縮薬の投与を医師に依頼する。
3. 胎盤の娩出を行う。
4. 経過を観察する。

49 胎盤娩出から 1 時間が経過した。A さんのバイタルサインは、体温 37.2℃、脈拍 70/分、血圧 110/70 mmHg。子宮底の高さは臍下 1 横指で硬度はやや軟らかく、子宮底のマッサージを行い硬度良好となる。後陣痛はない。1 時間値の出血量は 60 mL であった。会陰部に違和感と軽度の痛みがある。早期母子接触を行っている。児のバイタルサインは、体温 37.4℃、呼吸数 42/分、心拍数 150/分、経皮的動脈血酸素飽和度(SpO₂)98%(room air)。

助産師の対応で適切なのはどれか。2 つ選べ。

1. 医師に出血量を報告する。
2. 早期母子接触を中止する。
3. 膀胱充満の有無を確認する。
4. 次回の子宮収縮の観察は 1 時間後に行う。
5. 15 分間隔で A さんのバイタルサインの測定を行う。

次の文を読み 50～52 の問いに答えよ。

A さん(36 歳、初妊婦、専業主婦)は夫(35 歳、会社員)と 2 人暮らしである。A さんは双胎妊娠で、妊娠高血圧症候群を合併していたため、妊娠 34 週から管理入院していた。面会に来た夫から助産師に対して「出産育児一時金について教えてほしい」と相談があった。

50 夫への説明で正しいのはどれか。

1. 「双子の場合も 1 人分が支給されます」
2. 「分娩にかかった費用によって金額が変わります」
3. 「妊娠中に給付金の一部を受け取ることができます」
4. 「医療保険者から病院に直接支払われる制度があります」

51 妊娠 36 週 0 日。腹痛と性器出血があり、常位胎盤早期剥離と診断され、緊急帝王切開術となった。第 1 子は女児で出生体重 2,300 g、Apgar(アプガー)スコア 1 分後 5 点、5 分後 8 点であった。第 2 子は男児で出生体重 2,050 g、Apgar(アプガー)スコア 1 分後 0 点、5 分後 2 点。第 2 子は出生後 3 時間で死亡した。

第 2 子に必要な対応はどれか。2 つ選べ。

1. 死産証書の交付
2. 異常死産児の届出
3. 死胎検案書の交付
4. 死亡診断書の交付
5. 出生証明書の交付

52 A さんの分娩を担当した助産師は助産録を記載した。

助産録について正しいのはどれか。

1. 第 1 子、第 2 子それぞれに作成する。
2. 新生児の所見の記載義務は医師が負う。
3. 帝王切開分娩の記載は医師の診療録を代用する。
4. 緊急手術に関するインフォームド・コンセントの内容は記載事項に含まれる。

次の文を読み 53、54 の問いに答えよ。

A さん(31 歳、経産婦)は身長 156 cm、体重 59 kg。妊娠中、母児ともに経過は順調であった。妊娠 37 週 3 日、20 時に腹部緊満感の増強で来院し、内診所見は子宮口 4 cm 開大、展退度 30 %、Station -3、陣痛間欠 10 分であり、そのまま入院した。入院時の胎児心拍数陣痛図では、胎児心拍数基線は 145 bpm、基線細変動は正常で一過性頻脈がみられた。

妊娠 37 週 4 日、6 時の胎児心拍数陣痛図(別冊 No. 2)を別に示す。

53 このときの A さんへの対応で適切なのはどれか。2 つ選べ。

1. 努責を促す。
2. 内診を行う。
3. 経過観察をする。
4. 乳頭刺激を行う。
5. 超音波検査の準備をする。

別冊
No. 2

54 その後、A さんは 4,100 g の児を出産した。会陰裂傷は IV 度であり会陰裂傷縫合術が行われた。

分娩後の A さんへの対応で適切なのはどれか。2 つ選べ。

1. 緩下薬を投与する。
2. 抗菌薬を投与する。
3. 食事は普通食にする。
4. 血圧を 2 時間ごとに測定する。
5. トイレ歩行以外は動かないようにする。

次の文を読み 55 の問いに答えよ。

A さん(30 歳、経産婦)は身長 162 cm、体重 60 kg、特記すべき合併症はなく、妊娠経過に異常は認めず、胎児の発育は順調であった。妊娠 38 週 6 日、11 時 30 分に破水感で受診し高位破水の診断で入院した。妊娠 39 週 0 日、前期破水の適応のため分娩誘発の方針となり、オキシトシン点滴静脈内注射を開始し、9 時 30 分に陣痛発生した。11 時 45 分に完全破水し、羊水混濁は認めなかった。15 時 35 分に子宮口全開大し Station ±0 となった。その後、16 時に Station +1、16 時 30 分に Station +2、17 時 30 分に Station +3 と経過した。経過中、胎児心拍数陣痛図は reassuring fetal status であった。その後、19 時 30 分に Station +3 であった。

このときの胎児心拍数陣痛図(別冊 No. 3)を別に示す。

55 このときの助産師の対応で適切なのはどれか。

1. 経過観察をする。
2. 吸引分娩の準備をする。
3. ジノプロスト点滴静脈内注射の準備をする。
4. オキシトシン点滴静脈内注射中止の準備をする。
5. メチルエルゴメトリン静脈内注射の準備をする。

別冊
No. 3